学校だより

翔　　空

№１１　平成２３年　８月２５日（木）
郡山市立喜久田中学校長　大堀　昌弘

「翔空（しょうくう）」の由来　〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚（ふうこうめいび）なこの学舎（まなびや）から、**希望に燃え限りない空へ、力強く翔んでほしいという願い**を込めて、翔空の碑ができた。

◆８月１日付け人事異動に伴う担任等の変更について

この度の夏の人事異動により、新たに５名の教員をお迎えし、校内での担任等の受け持ちが一部変わりましたので、連絡いたします。

平成２３年度校内組織
校　　長：大堀　昌弘◆
教　　頭：二瓶　光子
教務主任：三瓶　勝義
第１学年
学年主任：伊藤　由紀
１　　組：石川　謙二
２　　組：山内　　卓
３　　組：**山田　　隆**◆
第２学年
学年主任：山本　裕樹
１　　組：向田　和美
２　　組：**箭内　広光**◆
第３学年
学年主任：阿部昭比古
１　　組：影山　　暁
２　　組：吉成　涼子
３　　組：**髙木　宏一**◆
養護教諭：宇佐美サヨ子
主　　査：**小松　桂子**◆
用務員：曳地　定男
司書補：國分智恵子
配膳員：佐久間喜代
教科専門員：鈴木　香奈（家庭）
ＳＣ：灘山　仁美
ＡＬＴ：ケズミー・ウィークリー

【 英語のことわざ 】

東洋、西洋を問わず古来から伝わる諺には真理をついているものが多く見られます。今回以降、シリーズで「英語のことわざ」を紹介していきたいと思います。まずはこの諺から。

"Actions speak louder than words."

直訳：行動は言葉より雄弁に語る。日本人は「以心伝心」などと言って言葉少なに生活していますが、欧米人からすると行動に示さない限り本当の意図は相手に伝わりません。まずは、思ったら行動に移してみましょう。読み方：「アクションズ　スピーク　ラウダー　ザン　ワーズ」

今、先が見えない事への不安感

～「ライトの光を信じて行くしかない」～

３月１１日に大地震が起きて以来、福島県は地震・津波・原発の三重苦を味わっています。中には、風評被害を含め四重苦と言う人もいます。先の見えないことほど不安感が募り、将来が見えないことはありません。実際、この８月１日に着任した５名の教員も同じような不安を抱え本校に着任いたしました。途中人事による混乱を最小限に止め、今後の学校教育活動に支障が出ないよう精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。

さて、今回、みなさんに紹介したいお話は実際にあった話です。『人はなぜ勉強するのか』という本の著者である岩橋文吉先生（九州大学名誉教授）の体験談です。

「ある時、一人の学生が自分の進路に迷い、岩橋先生を訪ねました。その学生は、自分の前に横たわる真っ暗闇の人生と自信喪失とが絡み合って、一歩も前進できないと訴えて来ました。最初は、いろいろと話し合いをしましたが、夜がふけてしまったので、先生は、一日よく考えてみなさいと帰宅を勧めました。学生が自宅へ帰ろうとしたその時です。岩橋先生は、学生にこんな話をしました。今、君が乗っている自転車のライトは１０メートル先しか届かないが、この暗闇の中を、君は９キロ先まで自転車をこいで進もうとしている。自分の力で前進するからこそ、１０メートルしか届かないライトが先へ先へと進んでいき、９キロ先まで届くのです。君も勇気を持って、自分の先を照らすライトの光を信じて、人生の闇に向かって前進してみませんか。常に前進、前進ですよ。自転車をこぐことは決してやめてはいけません。」

考えてみると、「自分探し」による人生設計の道というのは、決して簡単でも平坦でもありません。苦しみ、迷いながらの試行錯誤のくり返しかも知れません。それでも、私たちは、生きている限り、自分の自転車をこぎつづけなければなりません。よく哲学的に、「人生の目的は何か」などと問いただす人がいますが、今生きていること、あるいは、生かされていることが大切であって、とにかく一歩一歩自分の目標に向かって前進する。立ち止まることはあっても常に進み続けようと努力する。これこそが大事なのではないかと思います。

残暑厳しい毎日ではありますが、不思議なもので立秋（８月８日）を過ぎた頃から、私だけでしょうか、多少涼しい風を感じるようになりました。９月に入るとすぐに市駅伝大会を始め新人戦など、１・２年生を中心とした中体連が始まります。一方では、３年生にとって、高校受験に向けての準備が本格的に開始されます。

学校として手落ちのないよう最善を尽くして参ります。保護者の皆様のご理解と学校への一層のご協力をお願いいたします。何かございましたら、お知らせ下さい。学校と家庭・地域が一体となって取り組んで参ります。

■　なお、この学校だよりは、川島校長に引き続き、保護者の皆様への大切な情報提供の場としたいと思います。